



2017-18年度
国際ロータリー会長
イアン・ライズリー

Weekly Report Niigata



国際ロータリー
2017-18 年度テーマ



2017～18 年度
新潟ロータリークラブ会長
徳永 昭輝

新潟 RC 2 月第 2 例会 (2018.2.13) No.3219

(1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

(2) 徳永 昭輝会長挨拶

例年になく大雪の日が続きますが、雪のないミャンマーを訪問し、ヤンゴン RC と親睦と交流を深めてきました。

今日は、ヤンゴンの話をしたいと思います。

2月3日(土)午後成田に行って、4日(日)にミャンマーのヤンゴンに着きました。ホテルで新潟大学感染症拠点の渡辺久実拠点長、公衆衛生の斉藤玲子教授、小児科の斉藤昭彦教授と出会い、5日ヤンゴン第1医科大学を一緒に訪問しました。小児科の斉藤昭彦教授はヤンゴン小児病院で現在肺炎研究プロジェクトを遂行していますが、さらにサンピュア病院でも研究を進められるということで同行されました。新潟大学のミャンマーでの感染症研究グループの活躍を見ることができました。

新潟 RC は、国際ロータリー財団資金による G. G(Global Grants; グローバル補助金)プロジェクト「超音波診断装置導入によるヤンゴン市母子保健向上」を提唱し、実施国側協同提唱者; ヤンゴンロータリークラブ(第3350地区)、援助国側協同提唱者; 新潟 RC として、ミャンマー医療支援プロジェクトチームを立ち上げ[代表連絡責任者; 国際奉仕代表理事、樋熊紀雄]、DDF; District Designated Fund(地区財団活動資金)申請をして、ヤンゴンロータリークラブと MOU(Memorandum of Understanding)を締結し、2017-18 年度の GG project として、ヤンゴンの Sanpya 病院へ「超音波診断装置」を寄贈するために努力してきました。なかなかヤンゴン RC との間で MOU の締結が進まないため、ヤンゴン RC のこのプロジェクトに対する対応がどうなっているのか、またヤンゴン市内における母子保健に関する現状視察、このプロジェクトの申請に必要な資料等を収集するために、新潟大学名誉教授、内藤眞先生の協力を得てヤンゴン RC と Sanpya 病院を訪問し視察をしてきました。

ミャンマーは成田から飛行機で8時間、日本との時差は2時間半、雪深い新潟から乾季で過ごしやすい時期の訪問となりました。日本の1.8倍の面積、2014.9の人口は5141万人、2006.10. ネーピドーに遷都するまでビルマの首都でした。

2月5日(月)、ヤンゴンの第1医科大学(日本の東大にあたる)を訪問、そこでヤンゴン RC、次期会長の Haymar さんとプロジェクトに関する協議を行いました。Haymar 次期会長は2018-19 年度にはこのプロジェクトを 3350 地区に申請し、実施できるとの考えを示されました。しかし、独自にこのような事業をした経験がないので是非、手続き等について教えてほしい、

今回の協議会で自分の考えを示したいという内容でした。

Sanpya 病院は、第1医科大学の研修病院ですが、現在500床の病院ですが、1.5倍の入院患者を診ている。3年前から増築計画があり、病院の建物はできていましたがこの数年間増築計画が進んでいない状況でした。完成すると1000床の病院となり、明らかに必要な医療機器などが不足する状況におかれていると思われました。扱っているお産の数は、年間5000から6000件で、1日に20-30件のお産を扱っている病院でしたが超音波診断装置は3台、放射線科で管理され、診断されていました。

2月8日(木)ヤンゴン RC の informal meeting にメイクアップし、バナーの交換をして、2018-19 年度にはこのプロジェクトを遂行するための対応が出来るとのヤンゴン RC の考えを聞くことができました。次期会長の Haymar さんは女性で、英語の教師で優秀な人で、いままで協力して頂いた日本人の木下さんも、次年度には理事になるということでこのプロジェクトのために尽力出来るかと約束して頂きました。

この meeting には日本から2580地区の江戸川 RC のメンバーがヤンゴン RC と地区補助金を使い、小学校を寄付する独自の取り組みをしていて贈呈式のために来ていました。米山奨学生の要請に応じて事業に取り組んだと言っていました。今後、江戸川 RC と情報交換できるようにお願いしました。

帰りの空港で、バンコクに行かれるというヤンゴン RC 会長の Sy Wann さんと出会い、今後交流しながら親睦を深めることを約束して別れました。

日本に帰ると、2月9日にはヤンゴン RC からメイクアップのメールが届いていました。「これからヤンゴン RC と連絡を取ってほしい。ヤンゴンの恵まれない人々と恵まれない人たちの改善に向けて、一緒に働くことを楽しみにしています」との次期会長、Haymar さんのメッセージが添えられていました。

新潟 RC として初めて独自に取り組む G G project ですが、2017-18 年度で両クラブの間で MOU 締結まで持っていく、この訪問で得られた情報、人脈を有効に活用して、若槻年度(2018-19)で贈呈式が出来るように、ミャンマー医療支援プロジェクトチームでこちらの方針を決めて提示したいと思っています。

細野さんの挨拶にもあるように、仏教徒で温和な国民性、微笑の国ビルマ、その国の恵まれない人々にヤンゴン RC と一緒にロータリーらしい活動が出来ることを願い、会員の皆様にはこの計画が実施できるようご協力をお願い致します。

(3) 3分間スピーチ

・北陸瓦斯(株)会長 敦井 栄一君



・(株)ウオシヨク 代表取締役 宇尾野 隆君



(4) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(高木 言芳副委員長)

本多 晃君 新田 幸壽君
竹石 松次君 宇尾野 隆君

米山奨学会寄付発表(白勢 仁士委員長)

徳永 昭輝君 竹石 松次君

青少年育成基金寄付発表(小林 悟副委員長)

樋熊 紀雄君 本間 彊君

(5) ニコニコボックス紹介(八島 進副委員長)

- ・敦井 栄一君 1/31 日報夕刊に敦井美術館の記事が掲載されました。又、本日はご清聴ありがとうございます。
- ・森下 英樹君 会員スピーチの機会を与えて頂きました。ありがとうございます。
- ・本多 晃君 誕生日のワインありがとうございました。先週次男が大学に合格しました。これで7年続いた受験生の親も卒業でき、ほっとしています。御祝に、頂いたワインをおいしく頂きました。

(6) 幹事報告(大澤 強副幹事)

20日は合同例会の振替で例会を開催致しません。
合同例会は23日 ANA クラウンプラザホテル新潟にて
午後6:00 登録開始 6時30分開会です。

(7) 会員スピーチ

「酒類販売動向と CSV の取り組みについて」
キリンビール新潟支社支社長 森下 英樹君



(8) 2月13日例会の出席率 70.79%

会員数 91 (出席免除会員 8名)

出席者 63名 (出席免除会員 6名を含む)

(2週間前メーク後 91.01%)

2月13日 理事会報告 出席者9名

1. 半期決算について →資料を基に説明承認された。
2月27日例会に於いて発表する
2. 退会届 JTB 新潟支店長 安藤 智君=承認
3. 入会被推薦者について=承認
(株)JTB 関東法人営業新潟支店支店長 山田 周君
紹介者 本間 彊君、小林 敬直君
4. 日本ボーイスカウト新潟連盟からの要請の件
条件付き承認とするが、継続審議とする
5. 2月のプログラム=承認
- 6日 第一例会につきスピーチ無し
- 13日 会員スピーチ
「酒類販売動向と CSV の取り組みについて」
キリンビール(株)新潟支社支社長 森下 英樹君
- 20日 合同例会の振替休会
- 23日 新潟市内7RC合同例会
18:30~ ANA クラウンプラザホテル新潟
ホスト 新潟東RC
- 27日 卓話「新潟から福島、そしてフランスへ」
NHK 福島放送局局長
鈴木 仁氏 (当クラブ元会員)
6. その他
 - ・ミャンマー医療支援について
徳永会長より資料を基に報告、旅費(徳永会長・内藤先生)については、徳永会長より(案)を提出するので、再度理事会で検討する、次年度を考慮し予算化したい。後期の補正予算対応も視野に入れる
→ 継続審議とする
 - ・青少年交換オリエンテーションについて
若槻次年度会長より資料を基に報告。カウンセラーが必要であるが、関係理事と調整し事前に理事会にあげる→ 継続審議とする
 - ・財団アンケートについて
先日実施の財団アンケートを例会に於いて公表したい(高橋理事) → 承認された
 - ・地区奨学生(和田 直さん)のレポートを週報に載せたい(高橋理事)
→予備費で対処することも方法であるが確認事項あり、継続審議とする
 - ・新津中央RC40周年記念式典
新津中央RCより案内あり、参加者を募る。欠席の場合は祝電を贈る=承認